

令和元年度第4回千葉県子ども・子育て会議 議事概要

- 1 日時 令和2年1月17日（金）午前10時から正午まで
- 2 会場 千葉県教育会館 本館2階 203会議室
- 3 出席委員 阿部委員、稲垣委員、小川委員、金子委員、小山委員
指田委員、眞田委員、武富委員、中川委員、西牟田委員、
藤澤委員、松山委員、矢萩委員
- 4 関係課 総務部学事課
健康福祉部児童家庭課、健康福祉部子育て支援課
健康福祉部障害福祉事業課
教育庁学習指導課、教育庁特別支援教育課
- 5 議題（1）次期計画案について
子育て支援課が資料1に基づいて説明
質疑応答（概要）は以下のとおり

小山委員

事前に提出した件については、県に任せる。

これは県としての計画で、各市町村でも計画を策定すると聞いている。県内の全市町村にこの計画を作れるように、指導助言をお願いしたい。中小労働組合（個人経営の小さいところなど）が何かを作る際は、市町村計画が一つの基準になる。

子育て支援課

子ども・子育て支援事業計画については、市町村の作成は必須であるが、次世代育成支援行動計画については任意の策定となる。どこに力を入れるかは各市町村が決めることである。意見があったことに関しては、市町村に伝えておく。

小川委員

放課後児童支援員について、質の確保を市町村に任せるとのこと。しかし、放課後児童クラブの運営指針に基づいて県が認定資格研修をしている。この運営指針をもとに市町村の評価付けをしてほしい。監督業務は市町村であるが、指導

員の質の担保は県の仕事であるので、評価表を作成してほしい。

子育て支援課

御意見として承る。

阿部委員

目標の設定のない項目がある。目標を全て入れていただけるのか。

子育て支援課

目標設定については、各担当課に伝えたが、現段階では設定をすることが難しいとの回答もあった。将来、明確な目標が設定できるように課題とさせていただきたい。

阿部委員

現状と課題、目標の設定などのタイトルをすべてゴシック体などで強調して表現したほうが分かりやすい。事業については、タイトルを入れたほうがよい。事業の責任の明確化として、担当課も枠を分けて設けたらどうか。表現の違いではあるが、体裁としてお願いしたい。

子育て支援課

記載や表現の仕方については、全体のボリューム感もみながら検討させていただく。

眞田委員

目標設定が掲げられない理由を伺いたい。予算措置など、目標として掲げるのは時期尚早であると理解してよいか。

子育て支援課

目標設定は掲げられない理由については、方向性しか示せない事業もあるため、今後考えていきたい。

稲垣委員

「すべての子どもと子育て家庭の育ち」は日本語としておかしい。作成当時の思いがあるにせよ、もう一度考えてほしい。

さらに、この計画は国の基本構想にあわせ、自治体の実施計画をたてているような状況であるから、目標設定等難しい面もあるのは理解しているが、成文化し

た計画案が外に出る前に修正をお願いしたい。

「サービス」とは職務としての役務を指す言葉であり削らない方がよい。逆に保育「サービス」と使うことで、職務範囲の自制というのも重要であると思う。

市町村では計画を立てられない領域、例えば社会的養護については、県にゆだねざるを得ない。県計画はここに厚みをつける必要がある。

児童家庭課

社会的養護については、児童家庭課で別途計画を策定している。その計画と子育て計画の方向性が逸れてしまうといけないので、ポイントを落としこんだ構成となっている。子育て計画のほうにも社会的養護についての厚みをつけることについては整合性をとって厚くしていくことはできる。

稲垣委員

野田の事件について、この会議で経過報告を聞いているのか。

眞田委員

児童虐待についての一般論については話したが、野田の事件の詳細については聞いていない。

稲垣委員

子ども一人ひとりの権利の尊重を掲げているのに、柱になると産み・育て計画に見える。実際に行くと児童相談所の一時保護所は子どもがあふれている。保育等も重要だけれども、社会的養護については、従事者が燃え尽きてやめてしまい、更に人が不足するような状況である。柱の表現の仕方が重要だと思う。

眞田委員

計画に野田の事件の記載をして千葉県 of 積極的な取り組みのアピールをするのはどうか。

児童家庭課

いただいた御意見を踏まえ、積極的に考えていきたい。

武富委員

新・放課後子ども総合プランについて、県教育委員会から市町村教育委員会に働きかけていただければと思う。

また、子ども医療費の助成について、事前の意見にも書かせてもらったが、施策の方向と具体策について、県から市町村へ助成、市町村から子どもたちへ助成

しているので、それを正確に書いてほしい。

現状は中学3年生までの医療費を市町村が助成している。市町村によっては財政状況が異なるので、県から市町村への支援をしていただきたい。

児童家庭課

制度については、正しい記載に修正をさせていただく。

支援の拡充について、市町村から声が上がっていることは承知している。

阿部委員

医師の偏在について全国33位と示されているが、医師の少ないところなど他所と連携することで、対応が可能なのか。何の計画とつながっているかわかるとよい。

子育て支援課

医療については、別途保健医療計画などで詳しい内容が記載されている。目標の設定は、もう一度担当課へ確認をするが、医療の内容を入れ込みすぎるのは、難しいのでご了承いただきたい。

阿部委員

別途計画がある場合、その旨を記載することはできないのか。

子育て支援課

各計画の関連付けを整理していきたい。検討させていただく。

西牟田委員

医師不足の問題は、東京に集中している、働き方改革等、様々な問題がある。おおもとに国の施策が関わってくるが、地域差があることについては県で調整できると思うので、そこはお願いしたい。

稲垣委員

計画の相関図（関係性を示したもの）があるとわかりやすい。

高齢者の領域の動きは、20年後に子どもの領域で出てくる。例えば、20年前の地域包括の動きが今は子ども対象である。

エリア設定も考えていく必要がある。市町村の区分だけではバランスが取れない。

今回の災害の影響をうけ、房総半島の先の方の過疎化が一段と進むことを危惧している。千葉県全体としてどの地域でも暮らしていける体制を整えていた

だきたい。

これまで子育ての分野は地域福祉との連携が苦手だったが、施策間の連携、地域全体として一般の方に関心を持ってもらうのも大事。そのためにも、今の施策バランスをわかりやすく示してほしい。

金子委員

次世代育成支援対策千葉県協議会でも申し上げたが、P 6 2 の表記が分かりにくいので修正をして頂きたい。P 1 2 の子育て家庭を総合的に支援するという表現が弱い気がする。また、P 1 3 8 小規模保育事業所が急速に進んでいるが、卒園後の連携施設を中心に積極的な支援をお願いしたい。

子育て支援課

現在、待機児童対策協議会を設置している。小規模保育事業の連携施設の設定については、そこでガイドラインのひな型を定め、各市町村が協定を結ぶ場合、必要に応じた形に直して利用してもらっている。

指田委員

P 6 2 保育士等の質の向上等が記載されているが、千葉県の公立幼稚園が減ってきている。質の向上を保つためには研修が必要だが、幼児教育推進事業の事業内容が薄いと思う。もう少し詳しく記載してほしい。

先生方への質の向上等（研修など）の支援が必要になってくると思う。千葉県として、質の向上のために行う施策があるか。

子育て支援課

総合教育センターが、公立私立認定こども園問わず参加できる研修は実施している。幼児教育推進事業の研修名を記載し内容を膨らませることはできるが、いかがだろうか。

指田委員

厚みがついてしまうのですべてとは言わないが、重視していることがわかるような記載ならばよいのではないか。

子育て支援課

国指定の初任者研修、中堅者研修、県が進めている幼児教育アドバイザー育成研修について記載をする。

藤澤委員

広域調整について、保育士確保が大変になっている。価格競争で中核市に人材が取られる。保育士の給料が上がっている。

児童虐待の市町村間の連携の問題ある。引っ越した場合など、幼稚園と保育園の申し送りの仕方に違いがある。保育園は家庭環境や子どもの状態など申し送りの内容が薄い。全国どこに住んでいても同じケアが受けられるようなシステムを千葉県方式でもいいので検討することはできないか。また、現状を教えてほしい。

児童家庭課

虐待防止についての申し送りは、市町村が管理している注意観察すべき子どものリストがある。児童相談所だけでなく市町村間の引継ぎの問題も存在する。県からのアドバイザー派遣なども実施しているが、今後もテコ入れを行って改善していきたい。

子育て支援課

保育園の引継ぎや申し送りについて、松山先生にも御教示いただきたい。

また、処遇について、中核市だからできる、できないではなく、国の補助メニューについては市町村が選択して実施しているものである。

賃金などを均一化させたいが、県としてはなかなか踏み込めない部分である。現在実施しているアンケートの結果から、今後何ができるかを検討していきたい。

松山委員

保育所における引き継ぎについて、保護者によってはそれを望まない人もいる。小学校の連携については、個人情報との関係がある。産後うつや精神疾患等の親が増えており、保育士が疲弊している。幼児教育と関わっている医師との関係が出来ればと思う。

中川委員

子育ては様々な考えや、価値観がある。保育所等に通わせて育てたいお母さん、家庭で育てたいお母さんがいるが、後者への支援が少ない気がする。

子育て支援課

保育所に通わせていないお子さんについての支援は、地域子ども・子育て支援事業、子育てサロンや一時預かりなどを利用していただくことでサポートして

いる。幼稚園でもそういったサポートをしている。広報活動による周知を徹底していきたい。

矢萩委員

計画の相関図に加え、縦・横をどのように関連しているか読み取れる工夫がほしい。例えば、何度か意見を出している「医療的ケア児」について、どこが、どのように連携して、何をするのか等。

子育て世代包括支援センターも「増加を目指す」だけでなく、どのように増やすのかの工夫を示してほしい。

全体を通して用語にバラつきがあり、整える必要がある。

6 議 題（2）その他について

子育て支援課

2月にパブリックコメントを実施。その際にはあらためて計画案を送付予定。